CUC GROUP

医療という希望を創る。

チャレンジコロナプロジェクトレポート 2020-2021

Index P4 ABOUT チャレンジコロナプロジェクトとは

- P5 INTRODUCTION すべてはここから始まった PCR検査ラボ開設支援
- P6 PROJECT プロジェクト紹介
 - P6 01 Jリーグ 大規模定期検査支援
 - P8 02 自宅療養者支援
 - P10 03 全国大規模ワクチン接種会場運営支援
 - P12 04 ベトナム 医療体制構築支援
- P14 THANKS COMMENTS クライアントからの声
- P16 HISTORY プロジェクト活動実績

チャレンジコロナプロジェクトとは

全国の病院、クリニック、介護施設等の医療機関の経営・運営支援を 行う CUC グループは、2020年春よりグループ全体で「チャレンジコ ロナプロジェクト」を発足し、新型コロナウイルス感染症の拡大防止に 努めています。支援先医療機関における院内感染防止を行う中で培っ たノウハウや、企業・行政団体と連携して得られた医学的知見に基づ き、様々なソリューションを提供しています。確定したガイドラインを 遵守するだけでなく、常に最新の情報を取り入れてプロジェクトを推 進することで、社会に貢献し、人々の健康を守ることを目指します。

チャレンジコロナプロジェクトの支援内容

支援先 医療機関向け 感染症対策支援

自宅療養者支援

企業・行政向け PCR検査支援

企業・行政向け ワクチン接種 会場運営支援

企業・大学向け 感染症対策 コンサルティング

海外向け 医療体制構築支援



プロジェクトリーダーより



株式会社シーユーシー チャレンジコロナプロジェクト プロジェクトリーダー 事業開発室長 広田 幸生

チャレンジコロナプロジェクトは、高齢者や医療・ 介護施設を未知のウイルスから守るために2020年 4月に発足しました。世界からCovid-19に関する 最新情報を収集し、第1波から感染予防・クラス ター対策、PCR・抗原検査、自宅療養者支援、ワク チン接種会場運営支援など最先端のソリューション を提供し続けています。

プロジェクトに関わっていただいた行政、医療機 関、民間企業の皆様に心より御礼申し上げます。

すべてはここから始まった PCR検査ラボ開設支援

PCR検査ラボ開設で、一人でも多くの命を救う

プロジェクト発足の背景

チャレンジコロナプロジェクトの発端は、新型コロナ ウイルス感染拡大の第1波が拡大した2020年の4 月。感染者急増による保健所のリソース不足により、 全国的にPCR検査が追いつかず、陽性者の隔離を 適切に行えないケースや濃厚接触者への対応が遅 れるケースが発生していました。

全国に多くの支援先医療機関を持つ CUC グループ

として、新型コロナウイルス感染拡大を防ぐ取り組 みを展開していく必要性を強く認識し、「チャレンジ コロナプロジェクト」を始動しました。

最初の一歩として始まったのが、支援先医療機関を 拠点としたPCR検査ラボの開設です。地域の人々 が必要な時にいつでも PCR 検査が受けられる状態 を目指しました。







INTERVIEW | プロジェクト担当者が語る当時の様子

「安全にPCR検査が できる病院が足りない」 第1波の感染拡大で感じた危機感

中川 忠雄 人事総務部 リスクマネジメント推准チーム

第1波が到来した当時、コロナ禍の最前線で戦う 支援先医療機関のスタッフは、感染のリスクを抱え てもすぐには PCR 検査を受けられない状況に置か れていました。

必要な時に速やかに PCR 検査が受けられる環境を 作ることが、支援先医療機関の現場で働くスタッフ の安心に繋がり、その先にいる患者様のためになる。 そう考えて検査ラボの立ち上げ支援を急ぎました。

前例がない中でPCR検査ラボを開設する過程で は、数々のハードルがありました。行政や支援先の 病院など、様々な協力先に何度も地道な交渉を重 ねることで、当初は懸念を示されていた方々の理解 を徐々に得ていきました。

多くの関係者の方々の勇気と献身的な挑戦があっ てこそ、1日1,200件の大規模検査が可能な検査 体制を確立することができたのだと感じています。

第2波 2020年6月~

Jリーグ再開の要となった大規模検査センター立ち上げ

向き合った社会課題

相次ぐ大規模スポーツイベントの開催中止。 選手や観客の安全を最優先にした体制が急務

スポーツ界にも大きな影響を及ぼした新型コロナウイルス。公益社団 法人 日本プロサッカーリーグ(Jリーグ)も例外ではありませんでした。 2020年シーズンでは、2月に開幕を迎えたものの、その後、感染拡大 により中断。各クラブは一時活動休止を余儀なくされました。同年6月に は多くのファンに注目される中、リーグ再開を果たす一方で、一刻も早く リーグ全体の感染予防対策を講じることが喫緊の課題でした。

概要

「Jリーグコロナ検査センター」の 運営支援体制を構築

2020年6月より、CUCグループはJリーグの再開に向けたPCR検 査を行う大規模検査センターの運営支援を開始。全国約60のクラ ブチームの選手・スタッフなどの関係者に対し、2週間に1度のPCR 検査の定期実施体制を構築し、陽性の検査結果が発生した際には 緊急対応を行うことで、感染拡大に対する対策徹底を支援しました。 2020年の検査センター立ち上げから2021年も引き続き支援を継続 しました。



アウトカムデータ

検査実施の総同数

2020年約45,000件 1回あたり3,300人 2021年約60,000件

検査実施対応人数

対応試合数(Jリーグ主催)

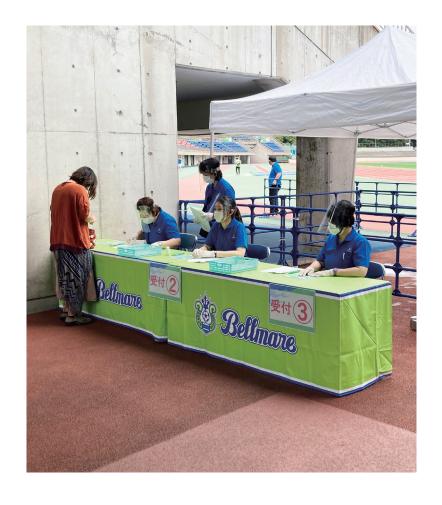
※期間:2020年6月~2021年12月

2020年1,074試合 2021年 1,122 試合 Jリーグ 大規模定期検査支援

INTERVIEW | プロジェクト担当者が語る当時の様子



佐藤 一志 チャレンジコロナプロジェクト 日本プロサッカーリーグ 新型コロナ対策室



安心・安全の試合開催を目指し、大規模な検査体制を構築

私のJリーグ出向は2021年2月。ちょうど第 3波が来ている時期で、各クラブ陽性者が増 えている時期でした。

今後さらに感染が広がるリスクを想定し、もっ と安全に試合を開催できるプロセスはないか 検討を開始した結果、提案したのは「抗原定 性検査」の導入でした。抗原定性検査は、当 時信頼性に欠けるという情報があったのです が、CUC社内の医師と連携し、海外の論文 や国内臨床結果を基に、一番信頼性の高い 抗原定性検査キットを選定。抗原定性検査と

PCR検査の一致率を測る検証を行いました。 結果、約300件のPCR検査と抗原定性検査 結果が100%一致するというエビデンスが得 られました。

その結果を受けて、本格的にJリーグへ抗原 定性検査を導入すべく、メンバー総動員で検 討を開始。そして、一定期間に陽性者や陽 性疑い者が発生した場合、その該当チーム は試合開催の直前(3.5時間前)に抗原定性 検査を実施する「Jリーグ オンサイト検査」を 2021年4月に導入することになりました。

満員のスタジアムでJリーグが開催できる日を目指して

オンサイト検査導入後、抗原定性検査が陰 性であれば試合にエントリーできる運用ルー ルにしたことで、対戦チームにも心理的な安 心感が生まれました。2週間に1回のペース でPCR検査とオンサイト検査を両方実施する こと、そして検査以外の様々な感染対策を行 うことで、感染が急拡大した第5波の時期で も、ほぼすべての試合を開催することが出来 ました。

私たちが関わる仕事は、CUCのミッション「医 療という希望を創る。」そのものです。感染対 策を徹底する。そして安心安全で全力でプ レーしてもらう。選手が全力でプレーする姿 を見てサポーターが感動する。まさに希望を 創っていると感じます。私もプロジェクトメン バーの一員、そしてサポーターのひとりとして、 満員のスタジアム実現に貢献したいと思ってい ます。

第3波2021年2月~

官民連携で地域の医療基盤を支える、自宅療養者支援

向き合った社会課題

医療体制ひっ迫のなかで、 いち早く自宅療養者支援を

2020年10月~2021年2月頃の第3波では、感染者が急激に増加し、 地域の感染症病床が埋まりはじめ、自宅療養を余儀なくされる方が増加 しました。当初、自宅療養の対象は、若年の方や基礎疾患のない方が 中心でしたが、徐々に高齢の方も入院できない状況が発生し、地域の 医療体制のひっ迫が大きな課題でした。

概要

電話での医療相談からお薬の手配まで。 遠隔看護の体制を構築

CUCグループにおいて訪問看護を行うソフィアメディ株式会社では、 2021年春以降、全国各地の行政・保健所と協働し、自宅療養者の支 援に取り組んでいます。

適切な療養生活のための情報提供、相談援助のためのテレナーシング (看護師による電話での健康観察)と、重症化が認められた際の訪問看 護の仕組みの構築や、オンライン診療や配薬を早く受けられる仕組みの 整備を行いました。また、地域によってはパルスオキシメーターとともに、 水分やカロリー摂取に必要な食材の提供体制などを様々な事業者と連 携して構築しました。

自宅療養者の家庭内感染や重症化に留意しながら、患者様を不安にさ せない対応に努めました。



アウトカムデータ

支援先の自治体

概算管理療養者総数

57,500_A

※期間:2021年7月~9月

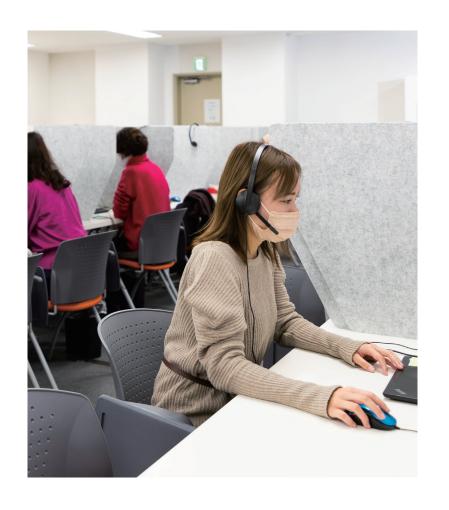
概算相談件数

39,800_#

INTERVIEW | プロジェクト担当者が語る当時の様子



直榮 和紘 ソフィアメディ株式会社 官民連携グループ



急増する自宅療養者を支えるサポート体制の構築

私たちは、自宅療養者支援を行う上で、電話 による健康観察と訪問看護を組み合わせなが ら、在宅療養の限界点を見定め、適切な判断 に努めました。感染が急激に拡大した第3波 においては、症状の重い方が増え、ご自宅で の医療体制を整えることが必要となりました。

さらに第5波の2021年8月時点では一時、 自宅療養者が全国で10万人を超え、多くの 方が自宅療養を余儀なくされました。酸素投

与等の医療ケアを必要とする方も多く、当時、 東京都から支給された酸素吸入器500台が、 たった10日間でなくなってしまったほどです。

独居の方や高齢者、家庭内全員が感染し、 世帯として生活維持すら難しいような方もおら れ、入院優先度を常に意識しながら、限られ た数の訪問看護師たちが試行錯誤しながら 対応しました。

未曾有の状況に葛藤しながら支援にあたった医療スタッフ

行政や保健所の皆さんと同じ現場を共有する ことで、ともに励まし合いながら対応できたこ とが救いでもありました。しかし、未曾有の状 況に不安を抱えながら療養者の方への対応に 追われる医療スタッフにも、ジレンマと疲労が 蓄積していきました。

災害ともいえる急激な感染拡大においては平時 の体制での対応は困難となります。自宅療養

者を支えるだけでなく、支援に当たるスタッフ たちのケアも同時並行しながら対応していく必 要性を強く感じました。

私たちが対応できたこと、できなかったことを 振り返りながら、災害時に必要な危機管理とし ての地域医療のあるべき姿をこれからも模索し てまいります。

第4波2021年4月~

全国一斉に実施した自治体・職域大規模ワクチン接種会場運営支援

向き合った社会課題

「1日100万回」の 大規模ワクチン接種実現が急務

2021年5月、東京を含む多くの地域で緊急事態宣言が延長される中、 感染症対策の決め手として期待されたのがワクチン接種でした。菅総理 (当時)は、同年7月末に接種を希望するすべての高齢者へのワクチン接 種を完了するため、1日100万回の接種目標を表明。全国の地方自治体 による接種、企業による職域接種を推進する一方、予定通りにワクチン 接種が進まないことが社会課題でした。特に高齢者や基礎疾患を持つ 方など、本来優先して守るべき人たちの接種が遅れないよう、自治体と 連携した接種体制の構築が急務でした。

概要

会場設営から人材の手配までプロデュース 接種効率アップで自治体の負荷軽減に寄与

2021年6月、CUCグループは、自治体および企業のワクチン接種会場 のオペレーション支援を開始。「職員の長時間労働」や「接種会場の運 営負担」といった自治体が抱える課題をふまえ、会場設営から、必要な 医療物資・人材 (医師/看護師/当日の運営スタッフ)の手配まで、大 規模ワクチン接種会場の運営オペレーションを包括的に支援しました。



アウトカムデータ

接種者総数

約113万人

(内訳) 自治体 81 万人 企業・職域 32 万人 対応団体数

(県、政令指定都市含む)

20団体以上

※期間:2021年6月~2021年12月

対応会場数

医療者の採用支援数

自治体 20 都市以上 150 会場以上

約4,000人

INTERVIEW | プロジェクト担当者が語る当時の様子



中嶋 隆太郎 プロジェクトマネージャー



誰も経験したことがない 大規模ワクチン接種に挑む

2021年、全国の自治体による大規模ワクチ ン接種が本格化しました。CUCグループが 担当したのは、全国の自治体や企業が主催す る累計150以上の接種会場の運営支援です。 同年4~9月の半年間で採用支援をした医療 従事者は約4,000人、接種者総数は自治体 接種・職域接種をあわせて113万人にのぼり ました。

大変だったのは、これまで私たちが経験した ことのないワクチン接種という領域で、プロ ジェクトの全体像を描くこと。十分な知見が ない中で、接種に関わる一連の複雑なオペ レーションを、円滑かつ安全に進める必要が ありました。

自治体と「共走」して、 国内の集団免疫獲得に貢献する

同時並行で進む複数のワクチン接種プロジェ クトを円滑に進めるために注力したのは、課 題解決の仕組み化です。発生した課題を個別 で解決するのではなく、他のプロジェクトにも 応用できる点はないかチームで議論するプロ セスが、スピードを落とさず多数のプロジェク トを推進する上で不可欠でした。

最終的に、大きな事故が発生することなく多く

のワクチン接種を支援できたのは、CUCのメン バーや、外部の専門家、パートナー企業、各自 治体の職員の方々と、同じゴールに向かってワ ンチームで共走できたことが要因だと思います。

ワクチン接種を支援することが、国内におけ る集団免疫獲得につながり、社会経済活動の 正常化に貢献できる。こうした想いがメンバー のモチベーションになりました。

2021年6月~

100%コロナ病床化、検査ラボ開設でベトナムの医療を支える

向き合った社会課題

デルタ株による感染拡大で 全土ロックダウンに陥ったベトナム

2020年に新型コロナウイルスの感染抑え込みに成功していたベトナム も、2021年6月、デルタ株の感染拡大に伴い、1日の新規感染者が 1万人以上に増加しました。ベトナム全土にて厳しい外出規制、ロック ダウンが敷かれ、感染拡大の中心地であるベトナム南部においては、入 院施設の不足が深刻な状況でした。陽性者の治療は、主に行政や軍に より設営された病院で行われており、人手や医療物資の不足から、医 療提供体制のひっ追が起こっていました。

概要

日本に比べて医療体制が 脆弱なベトナムで早期の病床転換・ 入院受け入れ、検査ラボ開設を実施

CUCでは、ベトナムにおける支援先であるHoan Hao Groupの1つ の病院を100%コロナ病床化する支援を行い、陽性者の入院受け入れ と検査ラボの開設を支援。ひつ迫した地域の医療体制の緩和に貢献し ました。また、CUCおよび Hoan Hao Groupの医療法人と共同で、 ベトナムの状況を鑑み、総額1000万円分のコロナ対応向け医療機器お よび医薬品を、病院が立地するBinh Duong省へ寄贈しました。



アウトカムデータ

※期間:2021年6月~2021年12月

コロナ病床化数

 $270_{\text{\tiny f}}$

入院受け入れ数

280_{ABE}

検査実施数

_{抗原検査} 90,000件以上 PCR検査 **3,000**件以上

INTERVIEW | プロジェクト担当者が語る当時の様子



田邉衛 Change Until Change Vietnam Co., Ltd 業務執行取締役 Managing Director



ベトナム国内で陽性患者の受け入れがパンク

新型コロナウイルスは全世界で猛威を振るい、 東南アジアでも2021年に入って感染状況が 悪化、6月中旬から急拡大しました。

ベトナムではロックダウンを行い、ホーチミン、 ハノイと近郊都市では医療・生活必需品の販 売スーパー、行政等の必須サービス以外の店 舗サービスはすべて停止となるなど、厳しい社 会的隔離措置が適用されました。

日本と比べて脆弱な医療体制のホーチミンの ある病院では、陽性者の受け入れがパンクし、 病院の外で酸素吸入などの処置が行われて いると報道されました。事実、東南アジア各 国では、医療水準の地域格差が拡大し、劣 悪な環境で医療を受けざるを得ないケースが 多々発生しています。

ベトナムで日本品質に基づく医療サービスを提供し、 新型コロナに立ち向かう

CUCでは、ベトナムで希少な日経病院の経営・ 運営支援をしており、良質な医療サービスの 提供をサポートしています。コロナ禍において も、チャレンジコロナプロジェクトの一環とし て感染症対策、軽症患者対応を行っています。

まずは、CUCが支援する医療グループのうち 1つの病院を100%コロナ病床にして専門病 院化することで、累計280人以上の陽性者の 受け入れを実施。さらに、感染拡大防止に向 けて、PCR検査ラボを3ヶ月というスピードで 立ち上げを支援。抗原検査は累計9万件実施 しています。

ベトナムは、日本とは医療制度が異なります。 コストを抑えながら、良質な医療を提供でき るかが今後のベトナムの医療に貢献する鍵だ と思います。日本ではないからできること、日 本より先に進んだ事例を率先して事業化して いくことが私のミッションです。

クライアントからの声

公益社団法人 日本プロサッカーリーグ 様

2020年にリーグ戦を一時中断した当時、未知の ウイルスを前に暗中模索の中で、リーグ戦再開の 要として上がったのが、検査の実施でした。全国 56クラブ、3.000人を隔週で受検できる規模を 受け入れられる委託先を見つけられずにいたとこ ろ、救世主のように現れたのが CUC 様でした。

行政検査に頼らず、プロスポーツリーグで初めて の挑戦となる独自の検査センターを設置できない か、という当時は無謀とも思える構想を現実に導 いてくださり、検査について右も左もわからない 私たちを陰日向で支え、検査全般の企画運営業 務の大役を担っていただきました。全56クラブに 対してJリーグとして検査センターを立ち上げるこ とを説明し、再開に向けた前向きな議論を進める ことができ、中断から実に4ヵ月ぶりにリーグ戦 を再開できることになったのです。これ以上再開 が遅れては、予定した試合が終えられなくなる懸 念が高まる、本当にぎりぎりのタイミングでした。

リーグ戦再開に向けた第1回の検査で3,070人 が受検し「陽性者ゼロ」の結果が出た報告を受け た瞬間は「ようやくこれでスポーツがお届けでき る」と安堵の気持ちでいっぱいでした。

こうして、現在まで継続している感染防止対策の 礎となるサイクルが出来上がりました。

2022年はさらに、オミクロン株の流行という新た な変化に対応するため、抗原定性検査の定期受 検へと制度の見直しを行い、新シーズンの開幕に 向けて準備を進めております。貴グループのメン バーの皆様には、検査体制の整備だけでなく、全 国的な抗原定性検査キットの利用状況といった最 新動向の共有を常に連携いただくことで、各地域 の医療資源に配慮しながら、より最適な検査制度 へと機動的に見直しを図ることができています。

また、現在では複数のスポーツ団体様と感染対 策の連携をされており、スポーツ界全体がコロナ 対策の強化を推し進められているという点でも、 貴グループの存在を大変心強く感じております。 大車輪のご活躍に対し、この場をお借りし、心よ り感謝申し上げます。

> 公益社団法人 日本プロサッカーリーグ チェアマン 村井 満

愛知県 大村 秀章知事

ご支援先の一つである愛知県において、 2021年11月、新型コロナワクチン大規模集 団接種に貢献した事業者に対する感謝状贈 呈式が愛知県庁本庁舎で行われました。

贈呈式は、新型コロナウイルス感染症対策 が徹底された中で開催され、開式の辞の 後、愛知県の大村知事より株式会社シーユー シー代表取締役 濵口へ感謝状をいただきま した。



小田急ホテル センチュリーサザンタワー 様

当社は、「感染症を正しく恐れる」を標榜し、 ホテルのスタッフが安心して働ける環境を築 くこと、ひいては、お客様の安全を守るとい う見地にたち営業しております。

CUC様とはそのような考えを共有でき、科 学的データに基づくエビデンスを背景にし たセルフプロテクションが最も重要であるこ とを学ばせていただきました。 一つ一つの サービスシーンでの対策、スタッフの館内 での過ごし方に至るまで最新のデータに裏 打ちされた寺島先生のアドバイスを受けなが ら、お客様に自信を持って対応できる 対策 を作り上げ、同時に従業員の不安も取り除く ことができました。進化し続けるコロナウイ ルスと対峙しこれに打ち勝って行くために今 後もCUC様とのパートナーシップは当社の 重要戦略の一部であると考えています。

> 小田急ホテルセンチュリーサザンタワー 総支配人 河村 治

一般社団法人日本バレーボール リーグ機構(Vリーグ機構)様

今(2021-22)シーズン、男女全5カテゴリー のリーグで708試合が予定されていました が、新型コロナウイルス感染症の影響により、 現時点 (2022年3月9日時点)で103 試合が 中止となっています。このような状況において、 Vリーグでは、定期的あるいは症状発生時に、 株式会社シーユーシーの Covid-19 定期スク リーニング検査(迅速抗原定性検査)を受け 続け、試合開催の可否を判断して参りまし た。残念にも試合中止という結果に至ること もありましたが、正確かつ迅速な検査結果 をもとに冷静な判断をすることに繋がってい ます。医学的エビデンスを前提として、感染 症対策と事業運営の両方の視点からのアド バイスをいただけるパートナーとしてCUC様 には協力いただいております。今では、定 期スクリーニング検査なくしては、安心安全な Vリーグの試合の開催は考えられません。

一般社団法人日本バレーボールリーグ機構(Vリーグ) 理事・事務局長 日置 康夫

近畿大学 様

新型コロナウイルスの出現に世界中が混乱し ていた2020年初頭、本学は4月から始ま る新年度の最適な授業運営の方法に苦慮し ていました。2020年4月、授業運営を一時 的に対面授業からオンライン授業へ全面移 行した後も、今後どのように感染対策と学生 さんのキャンパスライフを両立させていけば よいか、日々状況が変わる中で、本学は難 しい判断に迫られていました。

その時に非常に助けていただいた会社が、 CUC様です。最新の医学的見地に基づく、 的確な医療コンサルティングにより、施設の 感染症対策や各人のセルフ・プロテクション の意識が醸成されました。その結果、学生 さんが安心してキャンパス内で学ぶことが出 来る環境が早期に実現し、Withコロナ時 代にふさわしい新たな大学運営が実現いた しました。

> 近畿大学 大学運営本部 企画室長 山元 秀明

 \mathbf{C}

ル

ブ

0

できごと

プロジェクト活動実績

R

検査

運営支援

立ド P

デンジャップ ガラス 査

援ルラ

型

一検査

ボ

5 ラ C

上イ R

「集団接種お任せ」ワクチン3回目接 策リ コ - グ (日: テイバ 接種に向け レーボー ッケ 感染症検査体制 ジ 提供開 制構築 始

医療機器・医薬品寄贈 Binh Duong 省への が、と共同 同 で

検1ベ査0ト ラ 0 ナ フボ開設0%病床化・入院受けず 入 れ、

チ ン 職域接種会場運営

支大全 援規国 プ模自 ロワ クチ クト開始ン接種会場運営支援

に先立ち ッ P C R 検査支援リーグ)

東京都世田谷区東京都世田谷区 (藤沢市医師会との共同受託)「地域療養の神奈川モデル」の 0 運用支援

支援

9月

11月

2020

6月

2021 第3波

民間4社にて共同受託)

2月

支援

3月

初大

の阪

まん兵

延庫

止宮

等城重に

防

点

措

置

発

出

チ

ン

域

接

種

開

始

6月

第5波

第1波

第2波

開幕に先立ちP

 \mathbf{C}

R

1)

C

Τ

TC) 運

用セ

支メ

開

日本女子サッ

力

ij

検査支援リーグ)

なでしこり

政 世 界 の感染者 緊急事 0 言 0 0 万 、超える

東京 Ŧī. 輪 パ ラ 延 期 決

玉 内感染者 0 0 0 人超える

肺政 炎府 型 なが イ ど新 ン っ型 フ 指コ ル 定口 工 足感染症」ロナウイル ン ザ 等対策特措法制定 ル スによる

社 会情 オミ クロ ン株による感染拡大

ま第 ん 5 延波 防収 止束 等 `重点措置が解除 全都道府県で緊急事態宣言

や

東京 ラ 開幕

内 ワ クチ ン 種し 億回超え

会東場京 輪 客開 開幕 (東京・神奈川・埼玉 千 葉

0

東京 都 4 回 目 の緊急事 態宣 言

ク

東京 都 回 目

0) 緊急事 *態宣言

第4波

大規模ワ 0) ワ ク チ ク チン ン 接種予約受付 極開始 開 始

東京都 外国 世界 医療従事 人 の感染者数 0) 者 2 入国全面停止 回 向 け 目の緊急事態宣言 1 ワ 億 ク チ 人超える ン先行 接 種開 始

ヨ | 医療提供体制機能不全の恐れ病院ひっ迫で5都道府県「ス Go To ロッパで感染拡 が発 - ラベ 全国 時停止 「ステ ジ 4 _

Ξ

RテB

検査・感染症対策の支援開始ィング・イベントの再開支援のと業務提携。国内出張・

ため 0

8月

C 1

T

「企業、

「PCR検査サ`企業、自治体、

ービス」

提ポポ

開

始ツ

向 H

食 店 \sim 0 時 短 要請 開

初 0 染を確認

チャレンジコロナ プロジェクトレポート 2020-2021

2022年3月 第一版発行

【発行元】

株式会社シーユーシー 〒103-0004 東京都中央区東日本橋一丁目1-7 野村不動産東日本橋ビル 2階

【お問い合わせ】

https://www.cuc-jpn.com/



